

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2407 号

Polyglycolic acid sheet and fibrin glue for preventing esophageal stricture after endoscopic submucosal dissection: a historical control study

(内視鏡的粘膜下層剥離術施行後の食道狭窄予防術としてのポリグリコール酸とフィブリン糊併用療法 ヒストリカルコントロール研究)

飯塚 敏郎 (いづか としろう)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、表在食道癌に対する内視鏡的治療後に高頻度に発生する偶発症である食道狭窄に焦点を絞り、PGA シートとフィブリン糊の併用療法の有用性を論じた論文である。表在食道癌に対する ESD は広く行われており、標準治療として確立されてきている。低侵襲であり、臓器温存の観点からも有用な治療法であるが、広範囲切除を施行した場合に発生する食道狭窄の克服が課題であった。これまでに種々の研究がなされ、現在ではステロイド局注療法が広く行われている。しかし技術的な観点から遅発性穿孔を発症するリスクがあり、またステロイド投与に伴う感染症の再燃などのリスクを有している点が問題であった。高齢化社会を迎え、患者の高齢化の時代にステロイド局注療法と同等な効果を有し、より安全な治療方法の確立が望まれていた。PGA シートとフィブリン糊の併用療法がステロイド局注療法と同等の効果を有し、また副作用がほとんどない治療方法であることを始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。